

裏面白紙

記ノ月

爵位録長

立書 大正八年三月五日
決裁 大正八年三月五日

宗族録録長

宮内省

成那仁藏方叙任ノ件

大正八年三月四日
臺帳記入三月五日
官報署告済

宮内省

(六)

四



勲五等成瀬仁藏特旨叙位件
右謹テ奏ス

大正八年三月四日

内閣總理大臣原敬



内閣

大正八年三月四日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

三月四日裁可

勳五等成瀬仁藏ハ夙ニ女子教育ノ
必要ヲ認メ明治十一年以來之當ルニ
ト茲ニ四十有餘年殊ニ女子大學ノ創
立ヲ企畫シ拮据經營幾多ノ難關ヲ
排シテ遂ニ明治三十四年四月新立日
女子大學校ヲ開設スルニ至リ尔來其ノ

校長並教授トシテ専心基礎ノ確立設
備内容ノ改善努力ヲ克ク我國情ニ適
セシメ今ヤ大ニ其成績ヲ舉ゲ本邦女子
教育界ノ重鎮タルニ至リ其ノ他教
育調査會ノ負ミ選ビ又臨時教育會
議ノ委員トナリ熱心討究審議與カリ議
定ノ貢獻スル所尠カラズ而シテ多年教
育進行後達シ盡瘁シ其ノ功績顯著
ニ候處目下病氣危篤ニ付此際特旨
叙任ノ件上奏相成然ヘシ

勲五等 成瀬仁藏
特旨以五位記ヲ賜フ
勲五等 成瀬仁藏
叙従五位

勲五位 成瀬仁藏
特旨以五位記ヲ賜フ
重五位 成瀬仁藏
叙従五位

病氣危篤

内閣書記官長 二二二

大正八年三月四日

内閣書記官長

内閣總理大臣

内閣書記官長

勲五等成瀬仁藏ハ夙ニ女子教育ノ必要ヲ
認メ明治十一年以來之ニ當ルコト茲ニ四十
有餘年殊ニ女子大學ノ創立ヲ企畫シ
拮据經營幾多ノ難關ヲ排シテ遂ニ明治
三十四年四月私立日本女子大學校ヲ開設
スルニ至リ爾來其校長兼教授トシテ專

心基礎ノ確立設備内容ノ改善ニ努メ克
ク我國情ニ適セシメ今ヤ大ニ其成績ヲ
舉ケ本邦女子教育界ノ重鎮タルニ至レ
リ其他教育調査會會員ニ選ハレ又臨
時教育會議ノ委員トナリ熱心討究審
議ニ與リ議定ニ貢獻スル所尠カテサ
ル等多年教育振興發達ニ盡瘁シ其
功績顯著ニ候處目下病氣危篤ニ付此
際特旨叙位ノ件上奏相成然ルヘシ
勲五等 成瀬仁藏

蠲五等 改職二藏

新計旨婦部、半上奏時改職ハハ
以貴賜著、新題目下改職或改ハハ
非改多半婦育部與改職ハハ
婦ニ與リ婦室ニ貴職スハ所據
熱婦育會婦、委員ナリ熱心婦
其出婦育部查會會員ニ選ハシ又
舉々本時女子婦育界ノ重職スハ
ハ改職計ハ適ナシハ今々大ニ其改職
心基點ハ設立婦部内容ハ改善ニ努メ
ハハハ至、爾來其外身無改職ハハハ

内閣

二十四年四月日本女子大學ヲ開
婦部改職ハハハハハハハハハハハハ
育給半給ニ女子大學ノ同立ハハハ
婦、明治二十一年以來ハハハハハハ
蠲五等改職ハハハハハハハハハハハハ

内閣總理大臣

内閣書記官

大正八年三月四日

内閣書記官

大正八年三月四日

煙土等 販賣ニ關

日娼、判土、素昧、然、ハ、
著、知、趣、目、下、既、廉、武、黨、ハ、
手、娼、育、社、興、發、數、ニ、盡、率、ハ、
「娼、武、ハ、貢、納、ス、ハ、何、堪、タ、ス、
會、議、ハ、委、員、ト、ナ、リ、然、ハ、情、実、審
娼、育、團、查、會、會、員、ニ、選、ハ、シ、又、諸
娼、女子、娼、育、界、ハ、重、難、タ、シ、至、
計、ハ、適、サ、シ、メ、合、タ、大、ニ、其、政、策、ハ、
ハ、販、賣、禁、斷、内、容、ハ、如、善、ニ、發、ス、克

内閣

ハ、爾、來、其、外、身、無、娼、婦、ト、シ、シ、事、
下、四、月、以、來、日、本、女、子、大、學、外、ハ、開、娼
營、幾、多、ハ、鑒、關、ハ、將、シ、テ、遂、ニ、即、
十、般、ニ、女、子、大、學、ハ、同、立、ハ、金、盡、
ハ、十、一、年、以、來、之、ニ、當、リ、テ、娼、ニ、四、十
販、賣、ニ、關、ハ、同、ニ、女、子、娼、育、ハ、必、要、

内閣書記官

内閣書記官

三月四日

急、要、候、有、人、自、決、裁、上、本、文、趣、
官、印、ヲ、以、テ、上、奏、方、取、計、可、然、我

特旨ヲ以テ位記ヲ賜フ

勲五等 成瀬仁藏

叙従五位

内閣

東京府私立日本女子大學校長勲五等成瀬仁藏

敘從五位

右ハ夙ニ女子教育ノ必要ヲ認メ明治十一年
大阪ニ私立梅花女學校ヲ設立シ尋テ明治
十八年新潟ニ新潟女學校ヲ創設シ女子高
等普通教育ノ振興ニ盡瘁セリ明治二十
三年先進國ニ於ケル女子教育ノ實情
ヲ視察セシカ為メ米國ニ留學シ大ニ
得ル所アリ歸朝後進ニテ女子大學ノ

文 部 省

創立ヲ企畫シ拮据經營幾多ノ難關ヲ
排シテ遂ニ同三十四年四月私立日本女子大學
校ノ開設ヲ見ルニ至レリ爾來其校長兼
教授トシテ基礎ノ確立ト設備内容ノ改
善トニ銳意シ殊ニ我國情ニ顧ミ最モ家
政教育ニ重ヲ置キ外國ノ教育方法ヲ參
酌シテ家政科ナル獨立ノ一學部ヲ設ケ且
近時新ニ家政研究館ヲ特設シ斯教育ノ
發達ニ努メタリ又附屬高等女學校並ニ
小學校幼稚園ヲ設ケ一貫ヤル教育ヲ授

クルノ便宜ヲ圖レリ斯クノ如ク同人ノ苦心
經營ニ依リ校運年ト共ニ隆盛ニシテ在
學者現在大學部七百四十二名附屬高
等女學校五百名小學校幼稚園一千五百
五名總計二千七百四十七名ノ多數ヲ算
シ其卒業者ニ於テモ大學部一千七百三
十三名附屬高等女學校一千四百七名ニ
達シ今ヤ居然トシテ本邦女子教育界ノ
重鎮タリ而シテ同校ノ成績漸ク世ニ認メ
ラルルニ當リ畏クモ曩ニ 昭憲皇太后陛下

文 部 省

ヨリ御内帑金ヲ下賜アラセラレ明治四十五
年ニハ皇太子妃殿下同校ニ臺臨アラセラレ
次テ大正六年ニハ皇后陛下ノ行啓ヲ辱
ウセリ又我國教育制度改正ノ為メ教育
調査會ノ設ケラルルヤ其會員ニ選ハレ
次テ臨時教育會議ノ委員トナリ每會殆
ト缺席セルユトナク常ニ熱心討究審議ニ
與リ同會議力大學令高等學校令等我
國教育制度ノ重要ナルモノヲ議定ヤルニ
貢獻スル所尠カラス其他卒業生指導

ノ為ノ櫻楓會ヲ起シテ之カ會長トナリ
托兒所ノ經營、風水害ノ救援或ハ物資
廉賣等ニ盡瘁シ一面ニ於テ婦人ノ團
體的活動ヲ促進シタルモノ尠カラズ又同
志ト共ニ歸一協會ヲ起シ速ク歐米ノ識
者ト呼應シテ東西文明ノ融和ニ努力セリ
斯クノ如ク同人ハ我國女子教育ニ當ルエ
ト前後四十有餘年ノ久シキ畢生ノ事業ト
シテ一意專心之カ振興發達ニ盡瘁シ其
功績洵ニ顯著ナリトス然ルニ今ヤ同人篤
疾ニ罹リ命旦夕ニ迫レリ仍テ此際特ニ頭
書ノ通敘位ノ榮ヲ與ヘラレシムト茲ニ
謹テ奏ス

文 部 省

大正八年三月四日

文部大臣中橋徳五郎



履歴書

厚福山縣吉敷郡吉敷村百九十八番屋敷
寄留東京市小石川區高田豊川所十八番地
山口縣士族

勲五等 成瀬仁藏

安政五年六月廿三日生

學業

一明治九年六月山口縣師範學校卒業

一明治十年ヨリ同十一年マテ大阪ニ於テ米人エチキエツ
レウィット氏ニ就テ英語ヲ學ブ

一明治十三年十月ヨリ同十七年一月マテ北米合衆國
ニ遊學シ其間二十四年一月ヨリ二十五年六月マテマサ
チュセツト州アンドヴァーレオロヅカニセシナリ

東京府

ニ於テ教育學及社會學ヲ攻メ十五年九月ヨリ二
十六年四月マテ同州クウニバーニチ教育學部
ノ研究科ニ於テ特ニ女子教育ヲ專攻シ十六年四月
ヨリ二十七年一月マテ合衆國各州ヲ巡歴シ諸大學
ヲ視察ス

一明治元年八月ヨリ北米合衆國及歐羅巴各國ノ
教育ヲ視察シ同二年三月歸朝ス

事業

一明治十一年大阪ニ於テ私立梅花女學校ヲ創設シ

同十四年ニ至ルマテ同校ノ経営及ビ教育ニ從事ス

一明治十八年新潟ニ於テ新潟女學校ヲ創設シ同

二十三年六月マテ其校長タリ

一明治二十七年四月ヨリ同二十九年四月マテ再び大

一、明治三十七年五月以來女子大學創立ノ計畫ニ従事

シ同三十四年四月私立日本女子大學校ノ開校ヲ見

ルニ至リ其校長トナリ今日ニ至ル

功績

一、明治十一年私立梅花女學校ヲ創設ス

一、明治十八年私立新潟女學校ヲ創設ス

一、明治三十四年四月私立日本女子大學校ヲ創設ス

一、大正二年六月教育調査會々員仰付ラシム

一、大正四年十月勅五等ノ叙セラシム

一、大正七年九月臨時教育會議委員仰付ラシム

一、大正七年五月帝國教育會切牌ヲ受ク

又上

東京府

文部省

甲第一六〇號

成瀬仁藏特旨敘位ノ件
右上奏書及進達候也

大正八年三月四日

文部大臣中橋徳五郎



内閣總理大臣原

敬殿

裏面白紙

裏面白紙

大正八年三月四日

内閣書記官



宮内事務官

御中

通牒

右特旨ヲ以テ位
勲五等 成頼 仁藏
義本目御裁可相成
計相成度矣
間至急表方取

内閣

丙
二
八
一
四

宣統元年三月四日

決裁大正元年三月八日

宗秩寮實錄



實錄書記官 昌福

大正八年三月四日

按

勲五等成瀬 仁藏

特旨ヲ以テ位記ヲ賜フ

勲五等成瀬 仁藏

宮内省

敘從五位

右平日宣下相成候條此旨及傳達候位
記茲辭令ハ追テ及回送候也

大正八年三月四日

宗秩寮總裁

文部大臣



(六六)

裏面白紙

41

一勲五等成瀬仁藏

右位記並辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正八年三月五日

宗秩寮總裁侯爵井上勝之助

久戸上五

大正八年三月五日

宮内省